

「出題の意図」

<p>選抜区分</p>	<p>平成 31 年度 （選抜区分：AO 入試） 外国語学部 英米学科（科目名：英語、面接）</p>
<p>出題の意図 (評価のポイント)</p>	<p>【1 次試験】1 次試験は、模擬的に大学の授業を受講してもらい、授業についていくことができるか、その上で、授業で学んだことを正確に理解し、それについて自分の意見を表現できるかを問う試験である。</p> <p>問題 1.</p> <p>【出題の背景・出典】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業で用いられるテキストは、本年 6 月 15 日号の <i>Time</i> 誌に掲載された Brian O'Connor によるエッセイ”Why Doing Nothing Is One of the Most Important Things You Can Do”を、若干の語句の修正を行なったものである。高校生にとっての難語や理解困難な言い回しの修正は行なったが、最小限にとどめている。これらについては、模擬授業の中で講師が解説するので、それを手助けに英文を英語で読解していくことの醍醐味を味わってほしい。英米学科に入学後は、こうした形態の授業が中心となっていくからである。 <p>【求める能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題 1 では、模擬授業で用いたテキストの要約が求められる。ただし、設問の中に記されているように、テキストに記されている重要点を網羅しているだけでは不十分であり、講師が講義の中で解き明かした内容や、自身の見解として述べたものについても言及したものでなければならない。テキストの読解力、講師の英語の講義を聞きとり理解する聴解力、そしてそれらをもとに主題を把握し、まとめていく表現力の 3 つの能力を同時にはかる問題である。 <p>【解説】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの要約に当たっては、次のポイントを押さえておくことが重要である。 <p>(1)わたしたちは労働が自由を得るための最も重要な機会であると教えられてきた。労働を通して一人前の存在として認知され、社会に貢献する。しかし労働と人として認められることのつながりが強くなるにつれ、時間を怠惰に過ごすことは自由の対極にあることなのだと思うに至る。(第 1～第 3 パラグラフ)</p> <p>(2)今日、休暇は仕事のための充電、仕事に取り組むための心の準備を整える時間と考えられ、労働の対極ではなくその一部に組み込まれている。事実、あまりにもすることがないことは退屈である。わたしたち</p>

は休息を求めるが、その実、より忙しい労働を求めているのである。(第4～第5パラグラフ)

(3)しかしかつてはそうではなかった。ベルの小説に描かれた漁師は完全に自由で、社会的に成功しようなどと考えてはいない。友情や休息、人とのつながりの方が大切な時代だったのである。(第6パラグラフ)

(4)複雑な現代社会ではこうした状況への回帰は困難である。労働中心の考え方から脱却することは困難である。しかし、現代社会がわずかな休息の見返りにあまりにも多くの労働を求めていると考えるのであれば、何もしないことによってより大きな自由を求めることは考えて良い事である。(第7～第8パラグラフ)

- ・これらのポイントを押さえたうえで、講師が模擬授業で指摘したポイントを含めて内容要約を完成させてほしい。テキストの要約は良くできているが講師のコメントを一切記していない答案や、逆に講師の講義の内容は良くまとめられているがテキストの内容がじゅうぶんにまとめられていない答案では、大幅な減点がなされる可能性がある。両方を踏まえて要約を行なってもらいたい。

問題2.

【出題の背景・出典】

- ・問題1においてテキストおよび講義の内容の理解度を見た。この問題2は、テキスト及び講義で問いかけられたポイントについて、受験生の見解を問うものである。

【求める能力】

- ・問題文の主張に対し、受験生は賛成もしくは反対の意見を持つと思われる。ここでは自分の意見を、説得力を持って展開できる英語による表現力がはかれる。ただし、問題文に記されているように、テキストと講義それぞれに示された情報や意見などに言及したうえで文章を作成していなければならない。

【解説】

- ・問題文の主張をまず正確に理解しておかなければならない。ITなどの科学技術がどんどんわたしたちの生活の中に入り込んでくることにより、仕事を離れた家庭生活の時間が奪われてきているという主張である。これに対しては当然賛成および反対の意見が出されてくるであろう。大切なことは、その意見が客観的に論理的に述べられ、読む人を説得できる内容になっているかということである。
- ・英語による小論文であるので、語法面も当然チェックする。ただし、あまりにも些末な間違いによって大きく減点をするという姿勢ではな

く、文章が読者に説得的に迫ってくるかということが、より重要ポイントとなっている。

【解答のためのアドバイス】

- (1)問題文の要求に即した文章を作成すること。その点に集中し、周辺的な問題に惑わされたり、中心から離れたりしないようにすること。
- (2)論理的に構成すること。自分の立場を明確にし、そのための根拠や例をきちんと示すこと。課題文から引用したいときは、そのままではなく要約して言い換えると語数を節約することができる。
- (3)決められた語数を超えないこと。しかし必要な語数の目安として示されているものなので、決められた語数内でできるだけ多くの語を用いて文章を作成することをお勧めする。
- (4)文法の間違いは少ないほうが好ましい。また語句を適切に選択することは重要である。

【2次試験】2次試験は、実際に面接官と質疑応答形式のディスカッションを行ない、コミュニケーション能力を問う試験である。

【出題の背景・出典】

- ・初めに、1次試験の模擬授業について振り返り、必要に応じて質疑応答を行なう。
- ・標準的なレベルの英語による会話を行なう。

【求める能力】

- ・英語を用いて実際にコミュニケーションを行なう能力を問う。聞き取れないときでも、問い直しをするなど、途切れなく会話を行なうことができ、自らも積極的に意見を述べることができるか、など、総合的なコミュニケーション能力を有する人材を求めている。